

突如襲ってきた大 雨に大慌て 駅の ホームでの会話

カラッと晴れ渡る朝だった。

背伸びをして俺は妻におはようの挨拶。

そして先日生まれたばかりの子供とハイタッチをし

た。

昨日は家族で近くの映画館に時代物の映画を観に行ったので、

今日は一人で二駅先の美術館に趣味で少しずつ上達している絵画を見に行こうと思っていた。

近くにあるけれど意外と行かない。
そんなところってあるよなあと思う。

例えば京都に住む親戚は、海外の観光客よりも歴史跡
巡りをしないのだという。

自分が住む場所をあまり自覚していないというかな
んというか・・・・・・・・。

というわけで、意外や意外その美術館は初めてであっ
た。

美術品のほかに歴史の発掘物なども置いてあるが絵画も多い。インターネットサイトで事前に調べていた。

・・・・・・・・・・ところが・・・・・・・・・・。

最寄り駅までの道のりで大雨。

あまりの大雨に天気予報も外れ、傘も持っていなかった俺はこんなことなら別の日にすればよかったと後悔した・・・・・・・・。

気象予報士も予測できなかった自然の突如の変異。

そんな大げさなものではないのかもしれないけれど。

俺は駅ナカのカップ式自動販売機でホットコーヒーを一つ飲んで、駅のホームへと向かった・・・・・・・・。

階段途中で同様に傘を持たずびしょ濡れになった人を何人か見た。

大変だったねえ・・・・・・・・・・。

そう背中で語り合っているようにも思えた。

「あの大雨はなんだったんですかね??」

ふと隣で階段を上っているサラリーマン風の男性に話しかける。

体験版は以上になります。ご読了ありがとうございます。
した。